

# 研修報告書

令和元年 5 月 10 日

議長 殿

岩倉市議会 宮川 隆

## 第 11 回日本自治創造学会（報告）

このことについて、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

### 記

- 1 実施日 令和元年 5 月 9 日（木）
- 2 実施場所 明治大学アカデミーコモン
- 3 研修内容  
主催団体 一般財団法人 日本自治創造学会  
  
テーマ 「新時代到来」  
～地方はどう生き残るか～

《内容報告》

13:00～

【開会式】

開会挨拶

日本自治創造学会 理事長 穂坂 邦夫 氏

13:10～13:40

【講演】

「自立へのシナリオを語る」

地方自立政策研究所 理事長 穂坂 邦夫 氏

江戸時代において幕藩体制が引かれ 260 余りの国家が存在し、城下町・門前町・港町など多様性がある「まち」が形成されていた。

特に朝廷と多くの神社仏閣の本山を抱える京都、全国から年貢米が集まり先物取引など経済の中心地大阪（堺）、政治の中心であり、全国諸般の武家屋敷がある人口密集地江戸の 3 都市の繁栄が政治・経済・精神面で諸国民を支えていた。

明治期の国内での西洋諸国と対峙するために敷かれた「中央集権体制」であるが、その存在意義が薄れ、時代は多様性あふれる、土地ごとの文化を形成し、人が生活していた当時への回帰が求められている。

今日、地方分権社会を目指す中で、経済の発展のみに目を向けるのではなく、その地に生活する住民の幸せに基づいたまちづくりが求められているのではないか。

**11:00～12:00**

**【主報告】**

「ひと つなぐ まち」 —新しい風をつかむまちづくり—

那覇市長 城間 幹子 氏

近年、アジア圏を中心にクルーズ船が就航して多くの外国人観光客にお越しいただいている沖縄県であるが、那覇市においては、歴史文化に根付いたお祭りの PR や、地元住民の生活を支える市場や新文化発信拠点の整備にも力を入れている。

人が交流し多文化が共生する沖縄・那覇市ならではのコミュニティー間のコミュニケーションのあり方を市民協働で『平和・こども・未来「ひと つなぐ まち」』をキャッチフレーズとして進めている。

**15:00～16:30**

**【事例発表】**

「地域ビジネスを成功させる知恵と実践」

(株)MAKOTO 代表取締役 竹井 智宏 氏

「地域ビジネスを成功させる知恵と実践」

(株)MAKOTO 代表取締役 竹井 智宏 氏

「地域ビジネスを成功させる知恵と実践」

(株)MAKOTO 代表取締役 竹井 智宏 氏

「地方消滅論」が打ち出されてから政府も止まらない「東京一極集中社会」に歯止めをかけるべく取り組んでいる。

現時点のように地方分権を行わずに国家に権限や財源を集中させてしまえば、各地域は予算を奪い合う構図が生まれ国力そのものが衰退する。

人口減少が進む地域から見れば、国家が示すガイドラインに従ったインフラ整備には予算的な限界を感じている。これまでのように政府が進めてきた経済に視点を置いた「選択と集中」は、これらの人口移動に拍車をかける結果となっている。

人口問題を解決するカギは、競争でもなく、稼ぐことでもなく、適切に財を分配することが出来るかにかかっている。

選択や集中は住民に都市部を選択させ人口を集中させることになる。きめ細やかな住民の参加と連携の促進、協働を前提とした政策形成の『場』づくりが、求められるべきではないか。

14 : 40~15 : 50

【一般報告】

「自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくり」

釧路市長 蝦名 大也 氏

地方分権が謳われてから、釧路市では将来を見据えた地域資源の魅力の拾い出しに力を入れてきた。一例をあげれば「アイヌ文化の保護」「釧路湿原を中心としたラムサール条約締結第1号」「国内で唯一石炭の坑内掘りを行っており、露天掘りを行っている海外に将来の技術者育成を訴えての研修者受け入れ」「花粉が少ない点をアピールポイントとして『涼しい釧路で避暑生活』と銘打って首都圏でのキャンペーンの実施」などがあげられ、国内にとどまらず、海外にも情報発信を行い釧路市の魅力をアピールしている。

併せて、地方税としての入湯税を独自に徴収し財源の確保にも努めている。

15 : 50~17 : 00

## 【一般報告】

### 「新たなステージに入った沖縄観光」

ー複合的な魅力を有するハイブリッドリゾートへー

琉球大学観光産業科学部長 下地 芳郎 氏

沖縄といえば「青い海・青い空・白い砂浜」のイメージが定着しているが、近年外国人観光客の急増やビジネス目的来訪者の増加により沖縄観光を取り巻く環境は大きく変化している。文化の違いによるトラブルや住民生活への影響も顕在化しており、持続可能な観光地経営が求められている。

県内では知事直轄部局で、『観光からツーリズムへの移行』を掲げており、「観光立国推進基本法」国内において明確な定義はされていないが、国連においては、「狭い意味では観光とは、他国、他地域の風景、風俗、文物等を見たり、体験したりすること、広い意味では、観光旅行とはほぼ同義で、楽しみを目的とする旅行一般を示す」としており、『ツーリズム』は、「継続して一年を超えない範囲で、レジャーやビジネスあるいはその目的で、日常の生活圏の外に旅行したり、滞在する人々の活動を指し、訪問地で報酬を得る活動を行うことと関連しない諸活動」と定義されている。

那覇市観光基本計画では、「人も、まちも生きいき、美ら島の観光交流都市」を将来像として首里城や紅型、泡盛、琉球料理に代表される歴史文化資源エンターテインメントを提供することで、「様々な環境に柔軟に対応できる“強さ”と“優しさ”を持った交流拠点都市となることを目指している。

▽2日目：11月10日

9：30～11：50

### 【パネルディスカッション】

「ひとつがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略」

～新しい風をつかむまちづくり

コーディネーター

早稲田大学理工学術院教授 後藤 春彦 氏

パネリスト

(株)能作取締役 能作 氏

まちひと感動のデザイン研究所代表 藤田 とし子 氏

沖縄文化芸術振興アドバイザー 平田 大一 氏

福井県勝山市長 山岸 正裕 氏

静岡県島田市市長 染谷 絹代 氏

それぞれのパネリストが、地域に根差した地域の魅力づくりと、地域に根差した産業の育成の実践事例を発表し、「人が作り出す地域の目指すべき地方都市の方向性」を示していただいた。

11：50～12：00

【閉会式】

次期開催市

新潟県長岡市長 磯田 達伸 氏

閉会挨拶

後藤・安田記念東京都市研究所 理事長 新藤 宗幸 氏

感想

研修に参加させていただき、岩倉市の地域特性は何なのか、魅力は、観光資源は、文化は、産業の育成は、「桜と五条川」や各種計画から一步踏み出す形で改めて岩倉市の魅了を見直す必要性を感じさせられた二日間であった。

市民との協働が謳われて「岩倉市・市民参加条例」も制定されている中で、市民・住民が本当に望んでいるものは何なのか、将来像を含めて、執行機関や議会の行政に携わる者として、独りよがりにならないように市民との協働を前提とした「岩倉らしいまちづくり」を進めていかなければならないと再認識させられました。

以上